

ピアスタッフの 活動に関する 調査報告書

相川章子（聖学院大学）

a_aikawa@seigakuin-univ.ac.jp



This is an open access article licensed under the terms of the Creative Commons Attribution Non-Commercial License which permits unrestricted, non-commercial use, distribution and reproduction in any medium, provided the work is properly cited. 本報告書は、クリエイティブ・コモンズ（表示 - 継承 3.0 非移植）ライセンスの下に提供されています。
<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

概要

2012年11月30日～12月1日に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で開催された「第一回全国ピアスタッフの集い」の参加者63名を対象に自記式調査を実施し、事前調査では59名（回答率93.7%）、事後調査では58名（回答率92.1%）から回答が得られた。主な結果は下記の通りである。

- ・ ピアサポートに従事する者の呼称としては「ピアスタッフ」が最も広く使用されている。
- ・ ピアスタッフの雇用は2000年頃から盛んになり始めている。
- ・ 非常勤雇用が多く、仕事内容の提案や契約がない場合も多く、不安定な雇用が多い。
- ・ 仕事の内容としては、相談業務や事務的業務、プログラムの運営や訪問が多い。
- ・ 研修やスーパービジョンの機会が不十分である。
- ・ ピアスタッフのネットワークができること、普及啓発、資格化や制度化を求める声が多い。
- ・ ピアスタッフの集いへの評価は高く今後の継続的な開催を望む声が多い。

これらの結果をふまえ、今後のピアサポート活動の発展やより詳細で大規模な調査の実施につなげたい。

2013年1月

相川章子（聖学院大学）

目次

概要.....	2
目次.....	3
背景.....	4
方法.....	4
結果.....	5
ピアサポート従事者の呼称.....	5
ピアスタッフの採用、資格、契約.....	6
ピアスタッフの仕事と職場.....	9
ピアスタッフの研修とスーパービジョン.....	10
ピアスタッフの給与と社会保険.....	12
ピアスタッフの意義、課題、将来.....	13
今回の集いに関して.....	16
回答者の基礎属性.....	17
まとめ.....	20
資料.....	21
『全国ピアスタッフの集い』プログラム.....	22
ピアスタッフの活動に関するアンケート.....	23
『全国ピアスタッフの集い（仮称）』終了後アンケート.....	27

背景

わが国の精神保健医療・福祉の歴史において、精神障がい者は社会から断絶され、そして、保護および訓練という名のもとで人としての権利を奪われ続けてきた。そのなかで精神障がい者はパワーレス状態に陥り、夢を失い、未来を失っていった。これらの支援構造は、精神障がいのある当事者の声に耳をかたむけることなく専門職主導の支援を続けてきた歴史のなかで構造化され、組み立てられてきた。これらの構造を打破していくためには、専門職自身のうちなる気づきと意識化の必要性と共に、近年、大きなうねりとなつてうごめきはじめている「当事者主体」「当事者主権」という、当事者自身による声こそが必要とされている。その声となり、また「当事者主体」を実現していくキーパーソンとしてピアスタッフが注目されている。

しかしながら、発祥の地である米国と異なる歴史的・文化的背景をもつ日本において、ピアサポートの効果評価はもとより、その実態も明らかにはなっていない。そこで、「プロシューマーが提供するサービスの意義および効果に関する包括的研究（[科研費研究課題番号：24530724](#)）」が計画された。日本におけるピアサポートの包括的評価を目的とするこの研究事業の一環として本調査は実施された。日本においても急増していると思われるピアスタッフの活動の実態を把握し、ピアスタッフによるサービスの特徴、雇用の形態、可能性や課題を明らかにすることを本調査の目的とする。

方法

2012年11月30日～12月1日に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で開催された「第一回全国ピアスタッフの集い」の参加者63名を対象に自記式調査を実施した。集いの参加者は、調査者の知己のピアスタッフと、その紹介によって集まったピアスタッフであり、参加者の公募などは行なっていない。

集いの内容は、ピアスタッフの現状や課題、今後のビジョンなどをテーマとするグループワークを中心に、各地のピアスタッフによる活動紹介や国際的なピアスタッフ状況に関するプレゼンテーションが行われた（[資料『全国ピアスタッフの集い』プログラム』参照](#)）。

プログラムの開始時に調査の趣旨を説明した上で、研究参加の意思がある参加者から書面で同意を得た。オープニングセッションの開始時に事前調査票（[資料「ピアスタッフの活動に関するアンケート」参照](#)）が配布され、その場で記入を依頼し回収した。事後アンケート（[資料『全国ピアスタッフの集い（仮称）』終了後アンケート』参照](#)）はクロージングセッションの直前に配布され、終了直後に会場で回収された。

記入済みの調査票は、本調査研究の委託先である株式会社シロシベ（滋賀県）に、匿名化された状態で移され、データの集計、報告書のドラフト作成は株式会社シロシベで行われた。

なお、本調査は、聖学院大学研究倫理委員会の承認を得て実施された。

結果

スタッフやオブザーバーを除いた参加者 63 名のうち、全ての参加者から研究参加の同意が得られ、事前調査では 59 名（回答率 93.7%）、事後調査では 58 名（回答率 92.1%）から回答が得られた。

ピアサポート従事者の呼称

ピアサポート従事者（精神疾患および精神障がいがある人が、同様の疾患・障害のある方へ支援を提供していることで雇用契約を結び、報酬（最低賃金以上）を得ている人）の呼称に関しては、「ピアスタッフ」と呼ばれていることが最も多く、次いで「ピアサポーター」が多かった。「その他」の回答としては、「ピアヘルパー」「ピアカウンセラー」「コミュニケーション・スタッフ」「職員」「スタッフ」「いろいろ使い分け」などの回答があった。

表 1 ピアサポート従事者の呼称

	度数	%
ピアスタッフ	28	47.5
ピアサポーター	14	23.7
その他	8	13.6
当事者スタッフ	6	10.2
欠損値	3	5.1
合計	59	100.0

ピアスタッフの採用、資格、契約

ピアスタッフとしての雇用開始時期に関しては、ほとんどが 2000 年以降で、2011 年以降と回答したものが最も多かった。

表 2 ピアスタッフとしての雇用開始時期

	度数	%
2000年以前	1	1.7
2001年～2002年	1	1.7
2003年～2004年	5	5.1
2005年～2006年	10	16.9
2007年～2008年	9	15.3
2009年～2010年	6	10.2
2011年～2012年	17	28.8
欠損値	10	16.9
合計	59	100.0

ピアスタッフとしての勤務期間に関しては、6ヶ月未満から 10 年以上まで回答は多岐にわたり、5 年以上の者が 4 割以上であった。

表 3 ピアスタッフとしての勤務期間

	度数	%
6ヶ月未満	4	6.8%
6ヶ月以上～1年未満	7	11.9%
1年以上～2年未満	7	11.9%
2年以上～3年未満	4	6.8%
3年以上～4年未満	6	10.2%
4年以上～5年未満	5	8.5%
5年以上～6年未満	6	10.2%
6年以上～7年未満	8	13.6%
7年以上～8年未満	3	5.1%
8年以上～9年未満	2	3.4%
9年以上～10年未満	1	1.7%
10年以上	3	5.1%
欠損値	3	5.1%
合計	59	100

対人援助サービスに関する資格の取得状況に関しては、ホームヘルパーと回答したものが最も多く 50%、次いで精神保健福祉士が多かった。「その他」の回答として、「作業療法士」、「保育士」、「教員免許」、「WRAP ファシリテーター」などが挙げられていた。

表 4 対人援助サービスに関する資格

	度数	%
ホームヘルパー	15	50.0%
精神保健福祉士	9	30.0%
社会福祉士	1	3.3%
介護福祉士	1	3.3%
その他	11	36.7%
合計	37	123.3%

回答者数30

ピアスタッフとしての採用の経緯については、「雇用主または職員からの声掛け」が多かったが、「公募」との回答も 26.8%あった。「その他」の内容としては、「友人からの紹介」、「事業所に自分から働かせてほしいと言った」「ハローワーク障害者雇用」などの回答があった。

表 5 採用にあたってのピアスタッフの求人募集方法

	度数	%
雇用主または職員からの声掛け	41	73.2%
公募	15	26.8%
その他	5	8.9%
合計	61	108.9%

回答者数56

ピアスタッフとしての採用手続きに関しては、「面接での採用試験があった」ものが最も多く 55.6%、「採用試験はなかった」と回答したものも 42.6%にのぼった。

表 6 ピアスタッフとしての採用手続き

	度数	%
面接での採用試験があった	30	55.6%
採用試験はなかった	23	42.6%
筆記での採用試験があった	1	1.9%
その他	3	5.6%
合計	57	105.6%

回答者数54

雇用の際に具体的な仕事内容の提示や提案があったか問うたところ、あったと回答したものとなかったと回答したものが約半数ずつであった。

表 7 ピアスタッフ雇用の際の具体的な仕事内容の提示・提案

	度数	%
なかった	29	49.2
あった	25	42.4
欠損値	5	8.5
合計	59	100.0

雇用に関する契約書に関しては、「ある」と回答したものが 55.9%であったのに対し、「ない」という回答も 33.9%あった。

表 8 ピアスタッフの雇用に関する契約書

	度数	%
ある	33	55.9
ない	20	33.9
欠損値	6	10.2
合計	59	100.0

雇用形態に関しては、週 20 時間未満の非常勤が最も多く 33.9%、次いで週 20 時間以上の非常勤で 32.2%、常勤であったものは 18.6%にとどまった。

表 9 ピアスタッフとしての雇用形態

	度数	%
非常勤（週20時間未満）	20	33.9
非常勤（週20時間以上）	19	32.2
常勤	11	18.6
ボランティア	2	3.4
その他	4	6.8
欠損値	3	5.1
合計	59	100.0

ピアスタッフの仕事と職場

仕事内容に関する質問では、相談業務をあげたものも最も多く 63.2%、ついで、事務的業の 54.4%、プログラム運営の 49.1%、訪問の 43.9%などの回答が多かった。「その他」の回答としては、「職員の補助」、「レクリエーション」、「広報」、「講演」などの回答があった。

表 10 仕事内容

	度数	%
相談業務	36	63.2%
事務的業務	31	54.4%
プログラム運営	28	49.1%
訪問	25	43.9%
作業指導など	11	19.3%
家事など生活援助	8	14.0%
その他	17	29.8%
合計	156	273.7%

回答者数57

同職場でのピアスタッフの数については、事業者内に複数いると回答したものが 71.2%、同法人内でも同様に 71.2%であった。複数いる場合の人数については、同事業所内では、平均が 3.3 人、中央値が 3 人、最大が 7 人、同法人内では、平均が 3.9 人、中央値が 3 人、最大が 8 人であった。

表 11 事業所内のピアスタッフ数

	度数	%
複数	42	71.2
1人	13	22.0
その他	1	1.7
欠損値	3	5.1
合計	59	100.0

表 12 法人内でのピアスタッフ数

	度数	%
複数	42	71.2
1人	10	16.9
欠損値	7	11.9
合計	59	100.0

ピアスタッフの研修とスーパービジョン

ピアスタッフの研修に関しては、外部の研修に参加していると回答したものが最も多く45.8%、組織内で研修があると回答したのも25.4%あったが、研修がないと回答したのも18.6%にのぼった。

表 13 ピアスタッフに関する研修などを受ける機会

	度数	%
外部の研修に参加している	27	45.8
勤務組織内で研修がある	15	25.4
研修はない	11	18.6
欠損値	6	10.2
合計	59	100.0

ピアスタッフの活動に関するスーパービジョンについては、「あるが十分ではない」と回答したものが45.8%でもっとも多かった。

表 14 ピアスタッフの活動に関してスーパービジョンを受ける機会。

	度数	%
あるが十分ではない	27	45.8
十分にある	20	33.9
ない	7	11.9
欠損値	5	8.5
合計	59	100.0

スーパーバイザーが誰かという問いに対しては、専門職の上司と回答したものが最も多く75.0%、他機関の専門職が33.3%、他機関のピアスタッフやピアスタッフの上司と回答したものは、それぞれ14.6%と10.4%であった。

表 15 スーパーバイザー

	度数	%
専門職の上司	36	75.0%
他機関の専門職	16	33.3%
他機関のピアスタッフ	7	14.6%
ピアスタッフの上司	5	10.4%
その他	9	18.8%
合計	73	152.1%

回答者数48

スーパービジョンの方法としては、個別スーパービジョンが最も多く 70.5%、グループスーパービジョンが 56.8%であった。

表 16 スーパービジョンの方法

	度数	%
個別	31	70.5%
グループ	25	56.8%
その他	3	6.8%
合計	59	134.1%

回答者数44

スーパービジョンの頻度としては、定期的と回答したものと不定期と回答したものが同数で 37.3%であった。定期的と回答した回答者に、さらにその頻度を問うたところ、「月に1回以上～週に1回未満」の回答が最も多く、定期的なスーパービジョンがあると回答したものの 59.1%であった。

表 17 スーパービジョンの頻度

	度数	%
定期的	22	37.3
週に1回以上	4	18.2
月に1回以上～週に1回未満	13	59.1
年に1回以上～月に1回未満	5	22.7
合計	22	100.0
不定期	22	37.3
欠損値	15	25.4
合計	59	100.0

ピアスタッフの給与と社会保険

ピアスタッフの給与に関しては、月給で回答したものが 22 名で、その平均値は 113,773 円、最大が 225,000 円、中央値が 132,500 円であった。日給で回答したものが 1 名で、その金額は 12,500 円であった。そして、時給で回答したものは 31 名で、その平均値は 882 円、最大が 1,500 円、中央値が 900 円であった。

表 18 給与

	人数	平均値	最大値	中央値	最小値
月給	22	113773	225000	132500	10000
日給	1	12500	12500	12500	12500
時給	31	882	1500	900	500

社会保険に関しては、健康保険、厚生年金、労災保険、雇用保険の全てに加入できると回答したものが 37.3%であったのに対し、加入できないと回答したものが 44.1%で上回っていた。

表 19 ピアスタッフの雇用に関する社会保険

	度数	%
上記の保険に加入できない	26	44.1
健康保険、厚生年金、労災保険、雇用保険の全てに加入できる	22	37.3
上記の一部の保険のみ加入できる	6	10.2
欠損値	5	8.5
合計	59	100.0

ピアスタッフの意義、課題、将来

ピアスタッフの活動の効果や意義について質問したところ、「自分だけじゃない」という利用者の安心感や安堵感につながる」をあげたものが最も多く 75.0%、「体験を共有していることで支援者と被支援者の距離が縮まる」が 73.2%、「利用者がピアスタッフに親近感を持ち、関係やつながりを深まる」の 66.1%などの回答が多かった。

また、その他の回答として、「困っている方の希望になる」「ピアスタッフがいることで場がなごむ」「病気を治すというより一緒に人生や趣味や興味のあることについて共に考えていこうというチャンス考え方もあるよと伝える効果があり、妄想体験の共有は、人は妄想があってもいいのであり、苦しみの原因になっていけば一緒に考えていける肯定的受け止め方をメンバーさんがされることは意義あると思う」「公私に渡って利用者へと援助する側がかかわれる。」「専門職やピアスタッフ自身に対して生きるリカバリーの証明。こんなにカバリーをする人もいるんだと示すことによってモチベーションアップにつながる可能性があるということだそう。」などの回答があげられた。

表 20 ピアスタッフの活動の効果や意義

	度数	%
「自分だけじゃない」という利用者の安心感や安堵感につながる	42	75.0%
体験を共有していることで支援者と被支援者の距離が縮まる	41	73.2%
利用者がピアスタッフに親近感を持ち、関係やつながりを深まる	37	66.1%
援助することが援助される体験となり、元気になり、成長できる	31	55.4%
ピアサポートの実践を通して人の役に立ち感謝されるという喜びがある	30	53.6%
ピアスタッフは、スタッフと利用者の橋渡しができる	30	53.6%
ピアスタッフの自信につながる	29	51.8%
利用できる資源のバリエーションが増える	15	26.8%
その他	15	26.8%
合計	270	482.1%

回答者数56

ピアスタッフの活動に関する不安や困難、課題に関しては、「ピアスタッフが調子を崩さないか不安」が最も多く 62.3%、「給与・報酬や保険制度の整備が不十分」が 58.5%、「研修やスーパーバイズの手機が不十分」で 54.7%などの回答が多かった。

その他の回答の内容としては、「専門的な知識に欠ける」「どのような専門性が健常者スタッフと違ってくるか」という課題があり今後に期待。リカバリーのエビデンス（科学的根拠）を政府に示しピアスタッフに予算がつくように働きかけたい、環境を整えるのもソーシャルワーカーの仕事、これはピアのソーシャルワーカーとしての僕自身の遠い将来の目標です。」「ノーマライゼーション・バリアフリー・ソーシャルインクルージョン」といった回答があった。

表 21 ピアスタッフの活動に関する不安や困難、課題

	度数	%
ピアスタッフが調子を崩さないか不安	33	62.3%
給与・報酬や保険制度の整備が不十分	31	58.5%
研修やスーパーバイズの手機が不十分	29	54.7%
ピアスタッフの活動を支える財源がない	25	47.2%
ピアとしての役割と支援者としての役割、二重の役割を持つことが難しい	24	45.3%
利用者との心理的な距離の取り方が難しい	24	45.3%
ピアスタッフがスタッフと利用者の板挟みになる	22	41.5%
ピアスタッフと名乗ることで利用者との対等な関係が損なわれる	13	24.5%
その他	10	18.9%
合計	211	398.1%

回答者数53

ピアスタッフの活動にとって将来必要なことは何かという質問では、「ピアスタッフのネットワークを作ること」75.0%、「ピアスタッフの活動をより多くの人に知ってもらう（普及啓発）」69.2%。「ピアスタッフの資格化や制度化」59.6%の順で回答が多かった。

その他の回答の内容として、「ピアスタッフの給料の増収、身分の安定、健常者の理解」、「国をあげての取り組みが重要だと思う。病をもった者が回復し病を糧に輝いてピアスタッフとして活躍していくことが社会のためにもなると思うから（精神疾患は誰もがなり得る病！！）」「ピア」という言葉は内向きの言葉でいかなれば福祉経済圏内での話である外での関わりをつくっていかなければパイは限られている（財源）ので先細りになってしまう。だからフェイスブック（SNS）などで人脈、知脈を作っておくのは役に立つのではないか」「まずピアスタッフの仕事があまりにも多種多様なので整理することも必要ではないか。そのことに資格化、制度化はかかわってくると思うのですがピアの可能性について普及啓発も含めてもっと議論することも必要ではないかと思う」「リカバリーして病気が回復することを広くアナウンスすべきです。「治る」とニュアンスが違うという啓発活動を展開し、リカバリーの社会的根拠（エビデンス）を明らかにし、精神障害者も福祉分野で働くことも可能であると啓発につとめ社会環境（差別の是正）や雇用問題、リカバリーツールなどとりくむべき課題は山積していると感じます。」「短時間のピアスタッフの雇用契約や時給制などによるきめ細かい雇用の整備をしていかないと続く者がなかなか出てこないと思う」「専門職との違いが狭まらないようピアでいることの難しさ。だんだん専門職に近づく発想も受け止め方も資格化でそれをキープできればいいのですが・・・答えは一つじゃない！！ネットワーク・フットワーク・ニットワーク」「ピアスタッフになることによって病気が改善されるピアスタッフをいくつか見てきたし私もそうだ。精神保健福祉の分野での役割は担うべき部分が多くあると思う。人間関係の仕事なので自分を良く知り全人格を通して仕事をしたほうが良いと思うので色々な人材を抱えているほうが理想的であり、資格化や制度化によるマニュアル化しては幅広い人材を雇用しずらくなり多様性のさまたげになると思う。」などの意見が挙げられた。

表 22 ピアスタッフの活動の将来必要なこと

	度数	%
ピアスタッフのネットワークを作ること	39	75.0%
ピアスタッフの活動をより多くの人に知ってもらう（普及啓発）	36	69.2%
ピアスタッフの資格化や制度化	31	59.6%
その他	13	25.0%
合計	119	228.8%

回答者数52

今回の集いに関して

今回の集いに関する質問では、「自己紹介」と「懇親会」でやや評価が低かったものの、「とてもよかった」もしくは「よかった」と回答したものがそれぞれ85.7%と76.2%であった。それ以外のグループワークやプレゼンテーションに関しては、全ての内容で「とてもよかった」もしくは「よかった」の回答が90%を超えていた。

表 23 研修の感想

	よくなかった		あまりよくなかった		よかった		とてもよかった		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
自己紹介	2	3.6%	6	10.7%	30	53.6%	18	32.1%	56	100.0%
各地の報告	0	.0%	4	7.1%	24	42.9%	28	50.0%	56	100.0%
グループワーク1「現状について」	0	.0%	4	7.3%	35	63.6%	16	29.1%	55	100.0%
懇親会	1	2.4%	9	21.4%	14	33.3%	18	42.9%	42	100.0%
ピアスタッフの全国的な状況（相川）	0	.0%	0	.0%	24	42.1%	33	57.9%	57	100.0%
グループワーク2「テーマ別」	0	.0%	1	1.8%	26	45.6%	30	52.6%	57	100.0%
グループワーク3「これからについて」	1	2.0%	2	4.1%	25	51.0%	21	42.9%	49	100.0%

このような集いに今後も参加したいか、という質問については、有効回答の全てが「ぜひ参加したい」もしくは「まあ参加したい」であり、そのうち「ぜひ参加したい」が78%であった。

表 24 このような集いに今後も参加したいと思いますか？

	度数	%
ぜひ参加したい	46	78.0
まあ参加したい	11	18.6
あまり参加したくない	0	.0
参加したくない	0	.0
システム欠損値	2	3.4
合計	59	100.0

回答者の基礎属性

回答者の性別は、男性が 67.8% で女性が 28.8% であった。

表 25 性別

	度数	%
男性	40	67.8
女性	17	28.8
欠損値	2	3.4
合計	59	100.0

年齢に関しては、40 歳代が最も多く 44.1% であった。

表 26 年齢

	度数	%
20～29歳	6	10.2
30～39歳	13	22.0
40～49歳	26	44.1
50～59歳	10	16.9
60～69歳	2	3.4
欠損値	2	3.4
合計	59	100.0

疾患名については、統合失調症が最も多く 52.5%、うつ病が 13.6%、双極性感情障害が 11.9% であった。

表 27 疾患名

	度数	%
統合失調症	31	52.5
うつ病	8	13.6
双極性感情障害	7	11.9
統合失調感情障害	5	8.5
その他	2	3.4
欠損値	6	10.2
合計	59	100.0

精神科初診年は、1990年代が最も多く 32.2%で、最小値が 1973 年、最大値が 2007 年、中央値が 1994 年であった。

表 28 精神科初診年

	度数	%
1970～1979年	1	1.7
1980～1989年	14	23.7
1990～1999年	19	32.2
2000～2009年	10	16.9
2010～2012年	0	.0
欠損値	15	25.4
合計	59	100.0

精神科初診年齢は、16～20歳が最も多く 32.2%で、最小値が 13 歳、最大値が 46 歳、平均値が 24.0 歳で中央値が 22.0 歳であった。

表 29 精神科初診年齢

	度数	%
10歳未満	0	.0
11～15歳	3	5.1
16～20歳	19	32.2
21～25歳	13	22.0
26～30歳	9	15.3
31～35歳	5	8.5
36～40歳	2	3.4
40歳以上	2	3.4
欠損値	6	10.2
合計	59	100.0

ピアスタッフとして活動する前の利用者としての経験については、「ピアスタッフの活動をしている機関で利用者だった」が最も多く 58.9%、「他の機関で利用者だった」が 42.9%、「利用者としての経験はなかった」者も 14.3%いた。

表 30 ピアスタッフとして活動する前の利用者としての経験

	度数	%
ピアスタッフの活動をしている機関で利用者だった	33	58.9%
他の機関で利用者だった	24	42.9%
利用者としての経験はなかった	8	14.3%
合計	65	116.1%

回答者数56

ピアスタッフになって利用していた機関の利用登録については、「従来どおり利用を継続した」が 54.3%、「ピアスタッフになって利用を終了した」が 37.0%、「利用を継続したが内容（利用サービスの種類や頻度など）を変更した」が 13.0%であった。

表 31 あなたがピアスタッフになって、利用していた機関の利用登録は変更されましたか？

	度数	%
従来どおり利用を継続した	25	54.3%
ピアスタッフになって利用を終了した	17	37.0%
利用を継続したが内容（利用サービスの種類や頻度など）を変更した	6	13.0%
合計	48	104.3%

回答者数46

ピアサポートへの参加経験については、「当事者活動」が 72.3%、「ピアサポート」が 61.7%、「セルフヘルプグループ」が 40.4%であった。

表 32 ピアサポートへの参加経験

	度数	%
当事者活動	34	72.3%
ピアサポート	29	61.7%
セルフヘルプグループ	19	40.4%
合計	82	174.5%

回答者数47

まとめ

精神疾患および精神障がいを経験しピアサポートに従事する者は日本においても急速に増えていると考えられるが、その実態は明らかにされていない。本調査は、ピアサポートに従事する者を対象とする探索的なアンケート調査であり、下記のような結果が得られた。

- ・ ピアサポートに従事する者の呼称としては「ピアスタッフ」が最も広く使用されている。
- ・ ピアスタッフの雇用は 2000 年頃から盛んになり始めている。
- ・ 非常勤雇用が多く、仕事内容の提案や契約がない場合も多く、不安定な雇用が多い。
- ・ 仕事の内容としては、相談業務や事務的業務、プログラムの運営や訪問が多い。
- ・ 研修やスーパービジョンの機会が不十分である。
- ・ ピアスタッフのネットワークができること、普及啓発、資格化や制度化を求める声が多い。
- ・ ピアスタッフの集いへの評価は高く今後の継続的な開催を望む声が多い。

本アンケート調査の結果が、全国のピアスタッフの声を代表するものではない可能性もあるが、先駆的な調査として今後のピアサポート活動の発展やより詳細で大規模な調査に示唆を与える知見が得られたと考える。

資料

- 集いの内容 (1 ページ)
「『全国ピアスタッフの集い』プログラム」
- 事前調査票 (4 ページ)
「ピアスタッフの活動に関するアンケート」
- 事後調査票 (1 ページ)
「『全国ピアスタッフの集い (仮称)』終了後アンケート」

『全国ピアスタッフの集い』プログラム

2012年11月30日(金)

- 13:00～ 受付開始
- 13:30～ 開始
主催者 挨拶 (開催の意図、二日間の目的)
- 13:40～ 自己紹介(全体で)と各地の報告(1~2分×50名以上)
*ご所属のパンフレットやピアスタッフに関するパンフレット、ピア・サポート講座、ピアスタッフ養成講座などがあればご持参・配布ください。
- 14:40～ 各地の報告(1人10分、雇用まで、活動内容、雇用の状況、思い等)
- 15:30～ グループワークⅠ『私たちピアスタッフの現状』
(ピアスタッフの活動内容、雇用状況、やりがい、迷い等)
- 16:25～ 全体共有(ピアスタッフの現状と課題)
- 16:45～ 宿泊説明等(鍵受け渡し)
- 17:00 終了 宿泊する方は各自お部屋へ。食堂にて夕食(宿泊しない方も食堂にて夕食をとることができます。ただし、夕食代は自己負担です)
- 18:30～ 懇親会(センター棟403にて、自由参加です)

2012年12月1日(土)

- 9:00～ ピアスタッフの全国的な状況、世界の状況(相川)
- 9:30～ グループワークⅡ分科会(グループワークⅠでできたテーマ等にわかれて)
①ピアスタッフと専門職との協働
②プロの支援者として、資格化について
③ピアスタッフとしての苦労・工夫・やりがい
④働きやすい環境づくり
⑤ピアスタッフならではの仕事・利用者の期待
⑥交流・つながり 等
- 10:15～ 全体共有
- 10:45～ グループワークⅢ『私たちピアスタッフのこれから』
(ピアスタッフのこれから・来年の集いについて)
- 11:30～ これからに向けて 将来的なビジョン
(3年後、5年後、10年後どうあることを望むか?それにむけて今、何すべきか?
来年度の予定(実行委員会の募集等))
- 12:00 講座終了
昼食(食堂にて、お時間の無い方はご無理なさらず)
- 13:00 解散

ピアスタッフの活動に関するアンケート

このアンケートは、日本のピアスタッフの実情を把握することや、そこで提供されるサービスの意義や課題を明らかにすること、そしてピアサポートの今後の展望を描くことを目的とする研究事業の一環として行われます。回答の内容は個人を特定できない形で処理されます。差し支えない範囲でお答えいただけると幸いです。

聖学院大学 相川章子

問1. ピアスタッフに関する基本的な質問

まず、ピアスタッフとしての経験に関する全般的な質問です。

- 1-1 あなたの事業所では、いわゆる「ピアスタッフ」（精神疾患および精神障がいがある人が、同様の疾患・障害のある方へ支援を提供していることで雇用契約を結び、報酬（最低賃金以上）を得ている人）をどのような呼び方をしていますか？

1) ピアスタッフ	2) ピアサポーター	3) 当事者スタッフ
4) その他()		

- 1-2 あなたがピアスタッフとして活動する前、利用者としての経験はありましたか？（複数回答可）

1) ピアスタッフの活動をしている機関で利用者だった
2) 他の機関で利用者だった
3) 利用者としての経験はなかった(→「3」の場合は 1-4 に進んで下さい)

- 1-3 あなたがピアスタッフになって、利用していた機関の利用登録は変更されましたか？（複数回答可）

1) ピアスタッフになって利用を終了した
2) 利用を継続したが内容(利用サービスの種類や頻度など)を変更した
3) 従来どおり利用を継続した

- 1-4 下記の活動に参加した経験はありますか？（複数回答可）

1) セルフヘルプグループ	2) ピアサポート	3) 当事者活動
---------------	-----------	----------

- 1-5 ピアスタッフとしての勤務期間は全て合わせてどのくらいですか？

約	年	ヶ月
---	---	----

- 1-6 ピアスタッフとしての雇用開始はいつですか？

西暦	年	(歳のとき)
----	---	---	-------

- 1-7 対人援助サービスに関する資格をお持ちですか？（複数回答可）

1) 精神保健福祉士	2) 社会福祉士	3) 介護福祉士	4) ホームヘルパー
5) 看護師(准看護師)	6) 臨床心理士	5) その他()	

1-16a スーパーバイザーは誰ですか？（複数回答可）

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1) 専門職の上司 | 2) ピアスタッフの上司 | 3) 他機関の専門職 |
| 4) 他機関のピアスタッフ | 5) その他(|) |

1-16b スーパービジョンの方法はどのようなものですか？（複数回答可）

- | | | | |
|---------|-------|---------|---|
| 1) グループ | 2) 個別 | 3) その他(|) |
|---------|-------|---------|---|

1-16c スーパービジョンの頻度はどの程度ですか？

- | | | | | |
|-----------------|-------|---|----|--------|
| 1) 定期的(どの程度ですか？ | 年／月／週 | に | 回) | 2) 不定期 |
|-----------------|-------|---|----|--------|

1-17 ピアスタッフの雇用に関して社会保険は整備されていますか？

- | |
|---------------------------------|
| 1) 健康保険、厚生年金、労災保険、雇用保険の全てに加入できる |
| 2) 上記の一部の保険のみ加入できる |
| 3) 上記の保険に加入できない |

1-18 給与はおおよそいくらですか？

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 月給／日給／時給 | 円 |
| この金額の決定基準や根拠などについてご存知であればご記入ください。 | |
| (|) |

問2. ピアスタッフの活動の意義について

2-1 ピアスタッフの活動には、どのような効果や意義があると思いますか？

あてはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください。（複数回答可）

- | |
|-------------------------------------|
| 1) 体験を共有していることで支援者と被支援者の距離が縮まる |
| 2) 利用者がピアスタッフに親近感を持ち、関係やつながりを深まる |
| 3) 「自分だけじゃない」という利用者の安心感や安堵感につながる |
| 4) 利用できる資源のバリエーションが増える |
| 5) ピアスタッフの自信につながる |
| 6) ピアサポートの実践を通して人の役に立ち感謝されるという喜びがある |
| 7) 援助することが援助される体験となり、元気になり、成長できる |
| 8) ピアスタッフは、スタッフと利用者の橋渡しができる |
| 9) その他 |

問3. ピアスタッフに関する課題について

3-1 ピアスタッフの活動に関してどのような不安や困難、課題があると思いますか？

あてはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください。(複数回答可)

- 1) ピアスタッフが調子を崩さないか不安
- 2) ピアスタッフの活動を支える財源がない
- 3) 給与・報酬や保険制度の整備が不十分
- 4) ピアスタッフがスタッフと利用者の板挟みになる
- 5) ピアとしての役割と支援者としての役割、二重の役割を持つことが難しい
- 6) 利用者との心理的な距離の取り方が難しい
- 7) ピアスタッフと名乗ることで利用者との対等な関係が損なわれる
- 8) 研修やスーパーバイズのコ機合が不十分
- 9) その他

問4. ピアスタッフの将来について

4-1) ピアスタッフの活動の将来について、どのようなことが必要だと思ひますか？

あてはまる項目の数字に○をつけ、「その他」の欄に自由に記入してください。(複数回答可)

- 1) ピアスタッフの活動をより多くの人に知ってもらふ(普及啓発)
- 2) ピアスタッフの資格化や制度化
- 3) ピアスタッフのネットワークを作ること
- 4) その他

問5. 基本的な事柄についての質問

5-1 あなたの性別について、当てはまる数字に○をつけてください。

- 1) 男性
- 2) 女性

5-2 あなたの年齢について、当てはまる数字に○をつけてください。

- 1) 20歳未満
- 2) 20-29歳
- 3) 30-39歳
- 4) 40-49歳
- 5) 50-59歳
- 6) 60-69歳
- 7) 70歳以上

5-3 あなたの疾患名を教えてください。

5-4 初めて精神科にかかったのはいつですか？

西暦 年 (歳のとき)

以上で質問は終了です。最後までご協力いただきありがとうございました。

『全国ピアスタッフの集い（仮称）』終了後アンケート

このアンケートは、今後の「ピアスタッフの集い」のあり方について皆様のご意見を伺うためのアンケートです。差し支えない範囲でお答えいただくと幸いです。

聖学院大学 相川章子

問1. 今回の集いについて

1-1 今回のプログラムの各内容はいかがでしたか？あてはまる数字に○をつけてください。

	とてもよかった	よかった	あまりよくなかった	よくなかった
自己紹介	4	3	2	1
各地の報告	4	3	2	1
グループワーク1「現状について」	4	3	2	1
懇親会	4	3	2	1
ピアスタッフの全国的な状況（相川）	4	3	2	1
グループワーク2「テーマ別」	4	3	2	1
グループワーク3「これからについて」	4	3	2	1

1-2 今回の集いについて（内容、会場、日時、運営、その他何でも）のご感想をご自由にお書きください。

問2. これからの集いについて

2-1 このような集いに今後も参加したいと思いますか？

2-2 今後、どうすればより良い集いになるとお考えか、ご自由にご意見をお書きください。

問3. その他

3-1 その他、この集いやピアサポートに関することをご意見やメッセージがあればご自由にご記入ください。

ピアスタッフの活動に関する調査報告書

発行日	2013 年 1 月
作成	相川章子（聖学院大学）
調査協力	株式会社シロシベ
発行	2012 年度「プロシューマーが提供するサービスの意義および効果に関する包括的研究（科研費研究課題番号：24530724）」代表者：相川章子
連絡先	a_aikawa@seigakuin-univ.ac.jp（相川章子）